

施策分析シート（平成19年度）

No1

施策名	体験学習等の推進	施策No	04-03	部課名	教育委員会事務局指導室		
関連部課名	教育委員会事務局学務課、社会教育課、子育て支援部児童青少課						
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[]					
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]					
目的	<p>様々な勤労等の体験や人との交流や活動を通して、社会の一員であることや他者への共感や思いやりを実感させ、子どもたち自身が自己の生き方を考える系統的な教育を推進する。</p>						
指標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (28年度)	
	勤労留学実施校の割合	-	10.0%	20.0%	100.0%	100.0%	実施数 / 中学校数
	ようこそ青年海外協力隊実施学級数	-	-	42.8%	50.0%	100.0%	実施数 / 小5、6中1学級数
	チャレンジ共和国	139名	154名	134名	129名	120名	参加者数(目標値は定員数)
	小学校職業体験の向上	60.9%	60.9%	87.0%	90.1%	100.0%	
現状と課題 (指標分析)	<p>勤労感や職業観を培うため、中学校全校で働くことを実感し体験的に学ばせる勤労留学を実施した。その成果と課題を分析し、定着させることが課題である。</p>						
今後の方向性	<p>[平成19年度]</p> <p>夢と希望をもって人生を切り拓き、生涯にわたって自己実現を図るため、中学校全校が勤労留学を実施するとともに、小中一貫のキャリア教育の充実を図ることが課題である。</p> <p>[平成20年度以降]</p> <p>地域の支援を受けた小学校から中学校までの一貫したキャリア教育を構築することが課題である。</p>						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	B	<p>本施策を通し、体験活動の充実を図り地域と一体となった児童・生徒の健全育成に努める。</p>

施策分析シート（平成19年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		17年度	18年度	前年度 設定	今年度 設定	
小中学生と乳幼児との交流	08-02-05	-	2,413	B	B	子どもに子育てを体験をさせる意味で優先度が高い。
下田臨海学園	12-03-32	22,619	22,700	B	B	水泳を中心とした心身の鍛錬は学校では体験できないものであり、優先度は高い。
清里高原学園	12-03-33	13,850	17,094	C	B	高原の自然や天体観測など都会では体験できないものである。移動教室との役割分担を図りつつ推進していく。
一輪車大会	12-04-01	120	110	B	B	子どもに多様な体験をさせる意味で優先度が高い。
少年キャンプ研修会・子ども会交流育成事業	12-04-02	992	1,270	B	B	子どもに野外活動等を行う機会を提供し、優先度が高い。
少年教室	12-04-03	949	962	B	B	子どもに多様な体験をさせる意味で優先度が高い。
ふれあい教育の推進	12-06-03	2,133	2,413	B	B	地域と一体となった教育の充実を目指す。
体験学習推進事業（学校農園、体験型職業教育の推進）	12-06-04	587	1,168	A	A	地域と連携し勤労留学を全校実施する。
ようこそ青年海外協力隊	12-06-05	-	504	A	B	夢を育む事業として定着を図る。
清里移動教室	12-06-06	31,234	30,892	B	B	学校の創意工夫を支援し充実させる。
下田移動教室	12-06-07	30,152	30,162	B	B	一層の学校の創意工夫を促す。
合 計		102,636	109,688			